

## ICD-O（国際疾病分類 腫瘍学）第3版の 日本語版の刊行について

### 1. 日本語版刊行の経緯

我が国において現在使用されている「疾病、傷害及び死因分類」は、世界保健機関（WHO）により作成された「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」（ICD-10）に準拠したものです。WHOは、このICD-10を各領域に合わせて普及をはかることを目的として、各々の領域ごとに補助分類を作成し公表しています。

今回、腫瘍学の領域を広く補完するためにWHOより公表されているICD-O（国際疾病分類 腫瘍学）第3版の日本語版を作成し刊行することとしましたので、お知らせします。この日本語版は、社会保障審議会統計分科会に設置された疾病傷害及び死因分類腫瘍学委員会（委員長 松尾宣武 国立成育医療センター総長）での検討を経て作成されたもので、ICD-Oの日本語版の刊行としては今回が3回目となります。

### 2. ICD-Oの使用による利点

ICD-Oを使用することにより、診療、研究及び行政などの多様なユーザーにとって、以下の利点が得られます。

- ① 腫瘍に単一のコードを与え、国際的基準に合った分類を使用することにより、専門医が詳細な診断を行うツールとして使用できます。
- ② 腫瘍は、健康問題の最重要課題になってきています。ICD-Oという世界に共通した分類システムを使用することにより、疫学データの収集、がんの発生率の比較、危険因子の特定が可能となります。
- ③ 診療の場でも、診療録管理、電子カルテなどの診療業務の電子化推進に寄与します。

ICD-O（国際疾病分類 腫瘍学）第3版が腫瘍という重要な疾病、死因の統計データの収集のみならず、診療録管理や学術研究等に広く活用されることを期待するところです。